

supported by



はちのへ街かどアカデミアの映画上映プログラムは、「白マドの灯」との共催企画です。

白マドの灯は、八戸市を拠点に活動する映画上映支援グループです。



HP



X



Instagram

美術批評 林卓行 東京芸術大学 美術学部芸術学科 教授



映像人類学者 鈴木岳海 立命館大学 映像学部 教授



鈴木岳海

東洋美術研究者 北進一 群馬県立女子大学 兼任講師



北進一

映画監督 井口奈己



TICKET

トーク 各回定員45名 / 各回開場は30分前

一般 : 2,000円
学生(大学生以下) : 1,000円

- 2026/2/21 (土) 14時〜 現代アートが現代アートになるまで
2026/2/28 (土) 14時〜 円空仏・木喰仏の美と魅力
2026/3/14 (土) 15時〜 映画の「見え方」はどう決まる?
2026/3/22 (日) 10時〜 映像人類学とはじめ

映画上映 各回定員45名 / 各回開場は30分前

一般 : 1,500円
学生(大学生以下) : 1,000円

- 2026/3/14 (土) 10時〜 『人のセックスを笑うな』
2026/3/14 (土) 13時〜 短編『だれかが歌ってる』『左手に気をつけろ』

チケット購入

チケットは、QRコードを読み込んでのオンライン購入、またはお電話でのご予約が可能です。



映画上映



※お電話でご予約の場合は、前日までに街かどミュージアム受付にて現金でのお支払いをお願いいたします。

お問い合わせ・電話予約

tel: 0178-32-7737 (街かどミュージアム)
info@machikadomuse.org

主催 / 八戸クリニック街かどミュージアム 共催 / 白マドの灯
後援 / 八戸市、デーリー東北新聞社、東奥日報社、BeFM

会場(トーク・映画上映共通)

八戸クリニック
街かどミュージアム 2F

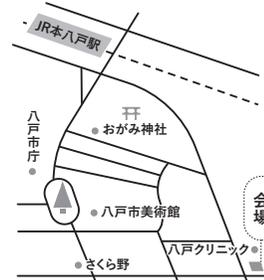
HP



ACCESS

〒031-0081
青森県八戸市柏崎1丁目8-29

- JR八戸線本八戸駅より徒歩10分
「二十八日町」バス停下車、徒歩1分
「下大工町」バス停下車、徒歩2分



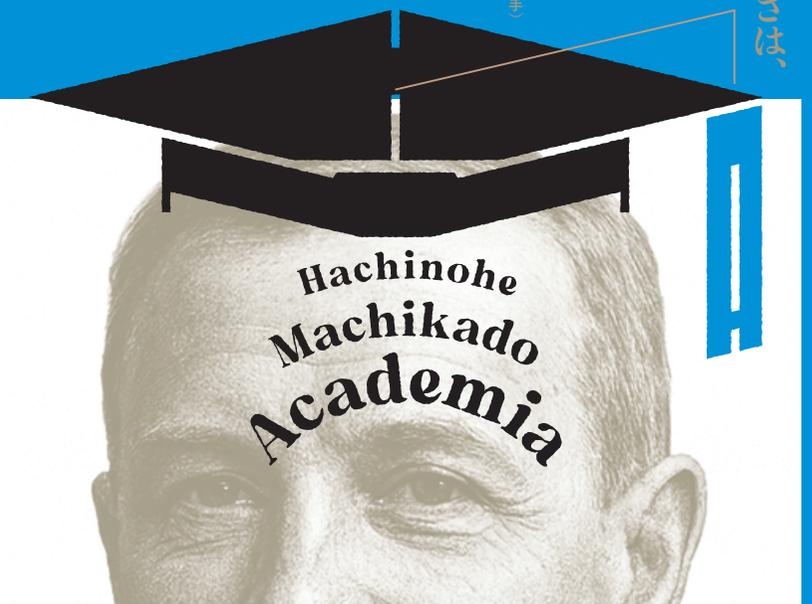
お車でご来場の方へ

- ミュージアム専用の駐車場はございますが、台数に限りがあります。
八戸クリニックの駐車場には駐車しないでください。
公共交通機関、または近隣の有料駐車場のご利用をおすすめします。

はちのへ街かど

VISUAL ANTHROPOLOGY / CINEMA / ART CRITICISM / HISTORY OF ORIENTAL ART

学びの素晴らしさは、誰もそれをあなたから奪えないことだ。
— B. B. キンランド (中)



アカデミア

トークに加え、今回は映画上映も。

井口奈己監督作品『人のセックスを笑うな』『だれかが歌ってる』『左手に気をつけろ』を上映します。

映像人類学 / 映画 / 美術批評 / 東洋美術研究 + 映画上映



Hachinohe
Machikado
Academia

はちのへ 街かどアカデミアは、
様々な専門家の方にそれぞれ
2年間計4回程度お話し頂くことで、
知をはぐくみ、情をあたため、理にふれる、
学びと交流の場です。

> **トーク** チケット(事前購入) / 一般: 2,000円・学生: 1,000円
※詳細は裏面をご覧ください。

2
21 (土)
14時~16時



※画像はイメージです。

現代アートが現代アートになるまで —— #02〈かたち〉と〈素材〉、ときどき〈コンセプト〉

講師 / 林 卓行 (美術批評: 東京芸術大学美術学部芸術学科教授)

〈アート〉はなにでできているでしょう。
色や形から?それとも石や木、絵の具のような素材から?
今回はもっと予想外のものからも作品をつくりだしてしまおう、
アーティストたちの発想に触れます。



プロフィール: 林 卓行 (はやし・たかゆき)
美術批評。東京芸術大学芸術学科教授。おもな著作に『西洋絵画の巨匠9 ウォーホル』(小学館、2006)、翻訳にゴームリー+ゲイフォード『彫刻の歴史』(石崎尚との共訳、東京書籍、2021)ほか。近年の寄稿に『既製品、拾得物、日用品——(レディメイド)あるいは「できあがった彫刻」たち』(富井・藤井・山本編『わからない彫刻: みる編』、武蔵野美術大学出版局、2024)。

2
28 (土)
14時~16時



※画像はイメージです。

円空仏・木喰仏の美と魅力

講師 / 北 進一 (東洋美術研究家: 群馬県立女子大学兼任講師)

円空と木喰は、江戸時代に日本各地を遊行しながら、大量の微笑みの仏たちを彫り上げました。それら円空仏と木喰仏は、時代をこえ私たちの心を打ちます。特に青森・北海道の円空仏・木喰仏の美と魅力を解説します。



プロフィール: 北 進一 (きた・しんいち)
1963年生まれ。中国・山東大学留学。アジア文化史専攻。群馬県立女子大学および高崎経済大学兼任講師。著書に『アシュラブック 興福寺阿修羅像から東大寺空寂観音像へ』(美術出版社)、『ほとけを知る 仏像めぐりハンドブック』(シンコーミュージック・エンタテイメント)、共著に『カラー版 東洋美術史』(美術出版社)、『世界美術大全集 東洋編 15 中央アジア』(小学館)、『中国世界遺産の旅3 四川・雲南・チベット』(講談社)ほか。

3
22 (日)
10時~12時



映像人類学ことはじめ

②観察と記録

講師 / 鈴木 岳海 (映像人類学者: 立命館大学映像学部教授)

1回目は、文化人類学の考え方や調査手法の特徴を概観しつつ、人類学と写真の出会いについてみてきました。
2回目は、映像人類学における古典作品から、観察すること、記録することについて考えてみたいと思います。



プロフィール: 鈴木 岳海 (すずき・たかみ)
立命館大学映像学部教授。1973年生まれ。専門は映像人類学。伝統的な年中行事やお祭、成人儀礼、ありふれた日常を映像と音声によって記録・分析することで、一見して見ることのできない変化や過去と現在のつながりを探索できる映像プラットフォームの活用を試行している。

映画上映プログラム

白マドの灯との共催により、トークに加えて井口奈己監督作品の映画上映を行います。
井口監督自身によるアカデミアトークも同日開催します。



> **映画上映** チケット(事前購入) / 一般: 1,500円・学生: 1,000円

※短編『だれかが歌ってる』『左手に気をつける』は、一般・学生の区分なく2本で一律1,000円となります。
※詳細は裏面をご覧ください。

3
14 (土)
10時~



©2008「人のセックスを笑うな」製作委員会

『人のセックスを笑うな』(137分)

上映時間 / 10:00~12:17
2008年 監督 / 井口 奈己 原作 / 山崎ナオコーラ「人のセックスを笑うな」(河出書房新社刊)

永作博美 × 松山ケンイチ × 蒼井優 × 忍成修吾
——フレッシュにして豪華なく奇跡のキャストिंग>が織り成す、
せつなさ100%の恋愛映画。

「みるめくんに触ってみたかったんだよね」
19歳の美術学校生のみるめ。ある日、絵のモデルを20才年上の講師ユリに頼まれる。その気まぐれで自由奔放な魅力に、吸い込まれるように恋におちた。初めての恋に有頂天のみるめだったが、実はユリは結婚していた。

3
14 (土)
13時~



©naminoripro

短編2作品

短編『だれかが歌ってる』(30分)

上映時間 / 13:00~13:30 2019年 監督・脚本・編集 / 井口 奈己

いつもの街角、どこからともなく聴こえるメロディ。

何気ない日常のなかで重なる「偶然」が人の想いを繋いでいく。『こどもが映画をつくるとき』そして『左手に気をつける』へと続いていく、井口奈己監督が自身の持つ興味の本質を探索するかのような根源的作品。

短編『左手に気をつける』(43分)

上映時間 / 13:30~14:13 2023年 監督・脚本・編集 / 井口 奈己

倒錯と暴力がはびこる世界で自由に暴れ回る。

20XX年。世界では左利きを媒介するウイルスが蔓延し、こども警察による厳しい取り締まりが行われていた。行方不明になった姉を探す神戸りんは、その足取りを追うなかで“運命の人”と出会い、「世界を変えていく」と意気込んでいくのだが……。

※映画上映とトークは、それぞれチケットが必要です。

同日開催

3
14 (土)
15時~17時

映画の「見え方」はどう決まる?

——井口奈己作品から考える

講師 / 井口 奈己 (映画監督: 日本映画監督協会新人賞、トリノ国際映画祭審査員特別賞・国際批評家連盟賞・最優秀脚本賞)

人物の映し方やカメラの位置に注目しながら、具体的な場面を手がかりに、映画がどのような工夫で物語や印象を伝えているのかを、観客との対話を交えたティーチイン形式でお話します。



プロフィール: 井口 奈己 (いぐち・なみ)
1967年生まれ。東京都出身の映画監督。2001年に初監督作『犬猫』でPFFアワード企画賞を受賞し、同作をリメイクして商業デビュー。第22回トリノ国際映画祭で審査員特別賞、国際批評家連盟賞、最優秀脚本賞を受賞したほか、女性監督として初めて日本映画監督協会新人賞を受賞。『人のセックスを笑うな』、『ニシノユキヒコの恋と冒険』など、人間関係の機微を繊細に描く作風で注目される。現在 ENBUゼミナールの映画監督コース専任講師として後進の育成にも取り組む。